

めでいか・すどる
Medicastre



「亥年の年男・年女」

鶴岡地区医師会

19年1月号

年頭のごあいさつ

日々、小さき善事を積もう

鶴岡地区医師会

会長 中 目 千 之

あけましておめでとうございます。

会員のみなさま、また職員のみなさんにとりまして、今年も充実した良き一年であらんことを心よりお祈り申し上げます。胸にひそやかに、今年一年の目標、志を抱(いだ)きましたでしょうか？

1. 変化への対応；これからの医療環境

今後の医療制度改革のおおきな流れは、「医療制度の都道府県を単位とした地方分権化」であります。保険者の再編・統合、医療費適正化5ヵ年計画、健康政策がすべて都道府県単位で決定されます。中でも医療費適正化5ヵ年計画は、目標設定(生活習慣病患者・予備軍の減少、医療の効率的提供など)と評価(3年後と5年後)が義務付けられています。2番目には、後期高齢者医療制度の創設(75歳以上、および65歳から74歳の寝たきり等の人)で、平成18年度末までに、市町村は後期高齢者医療広域連合を設置することとなっております。3番目は療養病床の削減と介護施設への転換です。現在の医療療養病床25万床と介護療養病床13万床を平成24年3月末までに医療療養病床15万床に大幅削減するというものです。以上の変化の中で、我々医師会にとって関係あるものは、健診事業と療養病床の削減です。健診事業は平成20年度から主体者が市町村から医療保険者にかわり、事後指導が義務付けら

れます。今年はこの大改革の細部にわたる事項が提示されますので、これに基づき立ち遅れないように、また事業の縮小につながらないように、細心の注意を払って準備に邁進したいと思います。療養病床の削減は、湯田川病院では40床が対象となっており、医師の確保を前提に回復期リハへの移行ができるか検討していかなければなりません。

2. 熱意ある学校医、産業医

現在、学校の現場では、養護教諭の先生が悲鳴をあげています。いじめや、心の問題を抱える子への対応や制度が不備のため、過度の負担が養護教諭の肩にのしかかっているからです。日常的にいじめられている子や、心に問題を抱えている子の多くは保健室にげこみます。第一発見者である養護教諭がこの子らのその後の対応に走ります。しかし、相談する人や専門的な知識をもった人たちとの連携の制度が全くできていないのです。スクールカウンセラー、臨床心理士の設置を多くの養護教諭は望んでいます。庄内地方には十分な人数の臨床心理士がいないため、精神科への橋渡し役をはじめ、相談を中心とした、この問題での学校医の役割を多いに期待しております。一方、防煙教育に関しても、学校間で格差があります。これまでの学童検診、就学前健診等から、いじめや心の問題を抱えた子

への対応、防煙教育など、時代の変遷により発生したあらたな問題への積極的な活動が求められる時代になってきました。

産業医もこれまでとは異なり、職場巡視、健診後の事後処理、事後指導、メンタルヘルスケアなどを本格的に行うことが要求されてきてます。特に、平成20年からの健診体制の変革により、産業医による健診後の指導はこれまで以上に重要性が増すことが予想されます。我々医師会は、この学校医、産業医の問題を逃げることなく、正面から対応していきたいと考えております。

3. 会社としての医師会

会社はなんのためにあるのか？医師会はなんのためにあるのか？

会社は社会に貢献するためにあります。我々の会社（医師会）は「鶴岡市民の健康を守るためにある」ということです。特に、職員にとってはこの鶴岡市民の健康を守るために、毎日働いているということを忘れてはなりません。また、今の医師会は企業としての側面を多く有しています。優良企業とは、職員が豊かで幸せで安定した人生をおくれる会社であること、社会から信頼される会社であること、先行投資するに十分な資金を確保できる会社であること、をいいます。我々は、優良な組織としての医師会作りに力を注いでいく必要があります。また、すぐれた企業は必ずビジョンを持っております。

4. 日々、小さき善事を積もう

私の今年の、胸にきざんだ目標は「日々、小さき善事を積もう」です。

医療人として、患者さんを救うことはプロ

としては当たり前のことで、善事ではないかもしれませんが。しかし、一日を終え、古女房の夕餉をまえに、緩やかに流れる時間のなかで、今日、人に言えるほどおおきなことではないがよいことをした、診療の中で、医師会の中で。これを日々積み上げて成長しようと。これが私の目標です。

「天地の気、暖（だん）なれば則ち（すなわち）生じ、寒（かん）なれば則ち殺す（さつす）」という諺があります。気候が温暖であれば生命が誕生し、寒冷であれば死んでしまう。人の性格も同じことで、温かな心を持っていれば人が自然に集まり、その人や周りの人も幸せになる。冷たい心を持っていけば、人は離れていき不幸せになる。いつも温和な心で人と接しているか自省してみよう、という意味です。

今年一年、温かい心を忘れず、日々、小さき善事を積みたいと思っております。

年頭のごあいさつ

年 頭 に 当 っ て

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院 長 竹 田 浩 洋

明けましておめでとうございます。

昨年のような豪雪もなく、景気が着実に上向いているという安堵感の中で、穏やかな気分でも新春をお迎えのことと思います。今年もどうぞよろしく願いいたします。

いじめや虐待など、事件続きであった昨年の漢字は「命」でした。政府の厳しい医療費抑制政策により医療もまた未曾有の危機に瀕し、医療界でも数多くの事件がありました。文字通り「命」の大切さについて改めて深く考えさせられた年でした。

春の診療報酬改定は、当院にも予想以上の影響があり、多大なご心配をお掛けしました。会員諸先生のご支援のお陰で、減収は最小限に食い止められる見通しであります。しかし、療養病床数を4割以下に削減するという政府の方針は変わらず、未だ樂觀は許されません。

療養病床再編計画の根拠は、入院患者の約半分が入院を要さない社会的入院である、ということですが実情はどうなのでしょう。厚生労働省が定めた医療区分の基準に照らしてみる限りでは、当院でもそれは事実です。しかし、この基準には無理があり、これを以って社会的入院の判定根拠とし、患者に自己負担まで課するのは、大いに問題があります。

医療区分は医療の必要度を示すものですが、判定結果はしばしば逆転します。それ

は、34項目にわたる基準が個々の病気や状態を切り離して考えているため、多病である故に病弱な高齢者が軽症とされてしまうからです。入院中の多病な老人の中には、病状が不安定なために荘内病院と当院とを往復するような、医療必要度の高い患者が多数含まれます。

もう一つの難点は、リハビリが必要な人の多くが、社会的入院と見做されて切り捨てられてしまうことです。大部分は在宅を目指して懸命に頑張っている人たちです。「入院から在宅へ」という厚生労働省の大方針とは矛盾するもので、見解を質したいところです。

真に社会的入院といえるのはごく少数です。当院においては、該当するのはすべて歩ける認知症の人達であり、受け入れ施設の不足が退院できない原因となっています。

医療難民2万人、介護難民4万人という日医の予測は、決して過大なものではないと考えます。急性期病院から患者を受け入れて、心身ともに元気にして、かかりつけ医にしっかりと引き継ぐという、療養病院本来の大切な役割を、今後とも担い続けていく所存です。

年頭のごあいさつ

新しい年を迎えて

介護老人保健施設 みずばしょう

施設長 遠藤 栄 一

明けましておめでとうございます。

「みずばしょう」は二度目の新年を迎えることができました。去年の今頃は、開設をして初めての年という事もあり施設内の業務自体もいろいろと大変でしたが、近年まれな大雪に見舞われデイケアご利用の皆様の送迎や除雪に難儀したことが思い出されます。

入所者の推移をみてみますと、昨年五月ゴールデンウィーク明けに開所しましてから入所者を徐々に増やしていき、昨年冬に一旦ほぼ満床の状態になりました。その後、春になり自宅に帰られた方が多く、夏から秋にかけては空いている部屋が多い状態が続き、長期間予算書の見込みを下回りご心配をおかけしましたが、今年もまた冬を迎えて入所者が増えてきました(12月22日現在98名(ショート含))。病院の入院状況などと同様冬期間に入所者が多い傾向があると考えられますが、昨年は介護保険制度の大幅な見直しがあった年でもあり、今しばらく様子をみないと何ともいえない面もあります。「みずばしょう」は開設から今日まで入所232名、ショート167名(予防給付4名含)、通所152名の方にご利用いただきました。入所者の過去五ヶ月の自宅復帰率は約48.5%で、これは病院など関連施設を持っていない介護老人保健施設としては低くはないようです。ここまでのところでは当初の目標に挙げた「中間施設としてリハビリテーションに力を入れ、利用者の皆さんが生活の場へ帰るためのお手伝いをする」という目標はある程度果たしているものと考えております。これ以上の在宅復帰率の向上を望むとすれば、在宅での介護力に対するアプローチや今までと違った形の医療機関との連携の強化が必要と思われれます。

施設の特徴の一つであります井戸水や温泉を熱源として外断熱とパネルヒーターを組み合わせた空調設備は、従来の空調設備と比較すると約25%程度のランニングコストで運用できることが判りました。この成果は11月に熊本市で開催されました全国老健大会で職員が発表させていただきました。また、昨年の冬は加湿器を使ったものの施設内の湿度が20~30%台程度にしか上がらず、今年はさらに大型の加湿器を設置して室内環境の調整を行ってまいります。

ご案内の様に「みずばしょう」は立ち上げの際の職員採用時に年齢制限を設け、その結果、職員の平均年齢が20歳前半と大変若くて元気な職員が集まった反面、現場未経験の職員も多いという状態で出発いたしました。私も含めて指導的な立場にある職員も病院勤務の経験は有っても施設勤務の経験は無く、そうした状況の中で介護施設としての職員の資質の向上も今後の大きな課題であります。これからは職員が積極的に学んでいく姿勢が必要と考えますが、庄内という土地柄なのかそういった姿勢の職員が少なく、今現在の技術の問題よりそっちの方が頭の痛い問題となっております。

今後も医療や介護を取り巻く情勢は絶えず変化していくでしょうし、施設に求められる役割も変わっていくものと考えます。しかし、将来的にどのような情勢になろうとも「みずばしょう」が地域の人々にとってより存在意義のある施設になれるよう、会員の先生方には今後ともよろしくご指導・ご利用をお願いして新年のごあいさつとさせていただきますと思います。

新年抱負（年男・年女）

心臓血管外科の阿部です。横浜出身です。もう48歳です。空間的にも時間的にも「思えば遠くへ来たもんだ。」の心境です。しかし、スイッチをもう一度入れなおして、頑張りたいと思います。

阿 部 寛 政

“2007年、怪我をせず猪突猛進できたらいいな。”と願っています。

岡 田 恒 人

亥年を中国では「ブタ年」というそうです。生まれた年を入れれば6回目の干支、つまりは還暦となってしまった私は、おいちよかぶ（花札）の“ブタ”を連想してしまいました。札の総和が零となり、これからが私の新たな始まりと考えることにします。

孔子は60歳のことを“耳順”と呼びました。相手の言うことに耳を傾けながら、春のように周囲をゆっくり温めながら生きていければと願っています。

黒羽根 洋 司

道はまっすぐなのにジグザグに遠回りして生きてきました。還暦など誰のことかと思っていましたが、自分がもうそんな年。先は短いだろうけれど体力は充分にあるので、第2の人生を楽しむつもりです。

今 野 俊 幸

48歳の年男を向かえて

原稿依頼をいただいて改めて、半生を脳神経外科医として生きたのだなという感慨があります。心身の健康に恵まれた幸運もありますが、その半生を誇らしくも思います。情熱をもってもつとつと技術を磨き、支えてくれた先輩・友人・家族・患者さん達の恩に報いたいと思っています。

佐 藤 和 彦

年男のことば

子供の時、祖父に「お前は馬車馬のようだ」とよく言われてきました。周りを見ないで猪突猛進するところは亥年生まれのせいでしょう。周りにも心当たりの人が大勢います。今年は歳のことも考えて慎重に事にあたり心で誓ってはおります。

真 島 吉 也

イノシシ医師 今年の抱負

自分自身と、自分と縁のある人々を幸せにするために努力すること。常に挑戦者でいること。言葉ではなく、行動で示すこと。この3つをモットーとして生きてきましたので、今年もそうしようと思っています。本年もよろしくお願ひします。

菅 秀 紀

最早「猪突猛進」ができなくなった代わり、回らぬ亥頰をめぐらせることが少しはできるようになった気がします。世の中のスピードにフットワークを乱されても、迷走だけはしないよう気をつけたいと思います。

竹 田 浩 洋

思い立ったら走ってる、走り出したら止まらない。まさに猪そのものの性格です。今年も走りますので、よろしくお願いします。「決断」「行動」「責任」。創業は易く、守成は難し。

中 目 千 之

今年には医師となり35年目の節目となり還暦を迎える年となりました。医師としても人間としてもまだまだ“未熟さ”を実感しておりますが、大好きな医師としての生活を終生大事にして頑張りたいと思っております。今後ともよろしくお願いします。

猪 股 昭 夫

若いときには、考えてもいなかった五回目の亥年です。私は、祖母、母、と三代続いた亥です。四代目がいなくて良かった(?)、私はやさしい亥のつもりです。今年もよろしくお願いします。

武 田 晶 子

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

阿部寛政

岡田恒人

黒羽根洋司

今野俊幸

佐藤和彦

真島吉也

菅秀紀

竹田浩洋

中目千之

猪俣昭夫

武田晶子



ご協力ありがとうございました。

臨時総会議事録

日時：平成 18 年 12 月 20 日（水）

場所：医師会 3 階講堂

黒羽根議長：定刻となりましたので、臨時総会を開催致します。

最初に資格確認をお願い致します。

佐藤局長：それでは、資格確認についてご報告致します。会員総数 186 名、6 時 30 分現在で出席されている方は 21 名、委任状を提出されている方は 105 名、合計で 126 名でございます。よって、総会の成立に必要な過半数の出席を満たしておりますので、本総会は成立致しました。

黒羽根議長：次に中目会長より挨拶をいただきたいと思います。

中目会長：皆さん本日はお忙しいところ、また仕事後のお疲れのところ臨時総会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

事前に配布しました提案趣旨にもありますように、平成 21 年度開所予定の鶴岡市の総合保健福祉センター内に、現在、老朽化により問題となっている休日夜間診療所が移転するという形で計画が進められております。それに伴いまして、休日夜間診療所の機能を見直そうということで、皆様方にはアンケートを実施致し、さらに先日は意見交換会も開催致しました。それを踏まえて、12 月 27 日の理事会で執行部が出した案が議題第 1 号ならびに第 2 号であります。

第 1 号のレントゲン装置の配置についてと、第 2 号の休日夜間診療所の配置体制についてご審議願いたいと思しますので何卒宜しくお願い致します。

黒羽根議長：どうもありがとうございました。

続きまして、議事録署名委員の選出を行いたいと思います。出席されている方で立



候補される方は挙手をお願い致します。どなたもいらっしゃらないようですので、こちらから指名させていただきます。岡田穆先生、丸谷紘一先生を推薦させていただきますと思います。

次に、議案第 1 号 鶴岡市休日夜間診療所の移転に伴う本医師会の提案事項 X 線撮影装置の設置について、中目会長より趣旨説明をお願い致します。

中目会長：今回提案した議案については、会員の視点からだけではなく、過重労働で苦勞している荘内病院の勤務医の先生方や、休日夜間診療所を利用する市民の立場に立って考えようという形で話が進みました。現在の休日夜間診療所は、荘内病院の一次救急の緩和に十分に貢献しているとは思われませんし、市民においてもある程度の専門性を求めているということは、日曜日の小児科専門体制が好評を得ているということからも伺えます。

以上のことを考慮に入れて休日夜間診療所の将来を考えますと、如何に実働が少ないとは言え、午後の外科系医師の配置の廃止、夜間診療の廃止というような間口を狭くすることは得策ではないと判断し、現在の二診体制を維持するという結論に達しました。

議案第 1 号のレントゲン装置の設置に関しましては、荘内病院の救急外来に集中している軽症、あるいは一次救急の患者さんの流れを休日夜間診療所へ向けるということが前提であり、その為には新しい休日夜間診療所の機能を充実させなければなりません。市ではスケジュール的には設計の段階に入っており、レントゲン撮影装置を設置するか否かということが求められておりましたので、理事会において討論致しました。

レントゲン撮影装置があれば、例えば、肺炎なのかどうかわからないので荘内病院に送るというのではなく、きちんとレントゲン写真を撮り肺炎ではないから大丈夫、明日かかりつけ医に行きなさいというふうに帰せます。つまり、可能な限り自己完結型に休日夜間診療所で治療を行い、出来るだけ荘内病院には送らないというふうにするには、最低でもレントゲン撮影装置が必要ではないかと考えました。先の意見交換会では、放射線技師が必要なのではないか、設置しても誰も使用せず無用の長物になるのではないかという意見も出ました。

そこで私、先日の日曜日に酒田の休日夜間診療所を見学してまいりました。ちょうど 4 歳の子供にレントゲンの指示が出ていましたが、看護師が壁に設置してあるタッチパネルで小児か成人かを選択し、胸にフォーカスを合わせて医師を呼び、医師がボタンを押すだけでした。なお、酒田の装置は現像するタイプですので、看護師が現像しフィルム読影しているということで、準備には 1 分もかかりませんでした。技師は全く必要ないということでした。我々は DR もしくは CR でフィルムレスタイプのを要求するつもりですので、もっと省力化し、使いやすさという点でも問題な

いと思います。

また、酒田では平成 17 年度に 68 件の撮影が行われ、ほぼ 1 日 1 件の割合で使用されており、埃を被るといようなことはなく、十分に利用されているということです。そういうようなことを参考にしましても、これからは我々医師会が一次救急を担わなければならないという気構えを持つとともに、機能を充実させるという意味でレントゲン撮影装置の設置は必須ではないかと考えたのが、執行部からの提案であります。このことについて、ご討論いただきたいと思います。

黒羽根議長：ありがとうございます。

ただいまの中目会長の趣旨説明に質問のある方はいらっしゃいますか。

木根淵清志先生：中目会長の趣旨説明は非常にわかりやすく理解できました。参考までに教えていただきたいのですが、新しい休日夜間診療所の場所はもう決まっているのですか。

また、医療訴訟に対するバックアップ体制について教えていただきたいのですが。

中目会長：建設予定地は NTT の旧資材置場になっていますが、鶴岡建設と鶴岡拘置所の間にある 5,000 ㎡くらいの土地に総合保健福祉センター、第 3 学区コミセンが隣接し、その中に入る予定です。

医療訴訟に関しては、市もしくは運営協議会が窓口となり対応します。

木根淵清志先生：個人に対してではないのですか。契約条項のようなものがあるのでしょうか。

中目会長：後で確認致しますが、我々一人一人が対応するということはありません。

今野俊幸先生：同じことになりますが、反対意見ではありません。心配なのはそういった訴訟問題で、専門外で骨折等を見逃したということや、逆に最初から自信がな

いので装置があるにもかかわらず、レントゲンを撮らなかったというような何もしないミスをつかれることがあり、その辺はどのように議論されたのでしょうか。

中目会長：医療訴訟について、理事会で特に議論は交わされませんでした。意見交換会では勉強会を開催し救急に対応できるようにしなければならないという意見が出ました。

黒羽根議長：その他ご質問、ご意見はありますでしょうか。

犬塚博先生：現像するタイプではないという話が出ましたが、出来れば写真を付けて庄内病院へ送りたいというケースもあると思うのですが、対応できるのでしょうか。

中目会長：費用はかかりますが対応は可能です。

五十嵐副議長：プリンターがあれば、プリントアウトできます。

犬塚博先生：メンテナンス等の費用は市の負担になるのでしょうか。

中目会長：これから要求していきます。

犬塚博先生：いくらぐらいの機械を予定しているのでしょうか。

中目会長：そういったことも本総会后からの要求になります。

黒羽根議長：この件について、その他ご質問等ありますでしょうか。宜しいでしょうか。

それでは、採決に入りたいと思います。個別に採決致しますが、議案第1号に関して賛成いただける方の挙手をお願い致します。

- 挙手多数 -

黒羽根議長：賛成多数ということで、議案第1号は可決されました。

それでは、議案第2号に移りたいと思います。鶴岡市休日夜間診療所の配置体制について、中目会長お願い致します。

中目会長：提案趣旨をご説明致します。

先ほど申し上げたとおり、アンケート調

査後の小児科医会において、現在、日曜日午前の診察を担当している9名の医師全員が祝日、振替休日、大晦日の午前中も診療するという事で全員一致の結論を出されました。

この結論を重く受け止め、我々執行部はこれまでの日曜日と同じ体制を祝日、振替休日、大晦日の午前中にも配置するという体制強化を提案するもので、平成19年4月から実施予定です。以上です。

黒羽根議長：ありがとうございます。この件についてご質問ありますでしょうか。

今立元先生：新たな休日夜間診療所では、乳児検診や予防接種等も実施するのでしょうか。それとも今までどおり各施設で実施するのでしょうか。

中目会長：公式な発表はされておきませんが、私が聞いた範囲内では新しく建設する保健センター内で実施するそうです。

今立元先生：もう一点、少ない人数で輪番するわけですが、正月三が日などは同じ人に当たらないように配慮していただきたいのですが。

中目会長：事前に伺っていましたので、そのように対応したいと思います。

参考ですが、平成19年からは小児科の先生方は平均7.3回で7回から8回、内科の先生方は3回から4回という風になっております。

今立元先生：また、突発的にインフルエンザが流行した時などは、内科の先生方にも手伝っていただけるような体制をとっていただきたいと思います。

中目会長：わかりました。

今立元先生：最後に、世の中は禁煙時代になってきており、医師会も敷地内禁煙になってきていますが、休日夜間診療所に来る方は一般の方ですので、分煙にするのか禁煙にするのか幹部の方々はどのようにお考

えでしょうか。

中目会長:その点については市の方針になりますが、第3学区コミセンが入りますので、そうした施設との関連で喫煙スペースが出来るのではないのでしょうか。

余談になりますが、この間、酒田の休日夜間診療所を見学した際、酒田では現在、ノロウイルスや感染症の患者さんには裏口から入っていただき、診察後は車の中で待っていただいているそうで、そういった待合室の分離、隔離という点で頭を悩ませているとのことでした。

黒羽根議長:その他ありますでしょうか。

丸谷紘一先生:この間の意見交換会に婦人科からの出席は私一人でしたが、意見を取りまとめておこうと思ひまして、分娩をしている3名の先生方に伺っております。

考え方は二つあると思うのですが、一つは途中で抜けられるくらいなら最初から来ていただかなくてよいというのと、今までどおり呼び出しなどで途中抜けることがあっても参加していただくということです。大方は後者の考え方でありませう。

中目会長:会員相互の協力で融通を利かせていただき、まめに広報していきたいと思ひます。

一点、言い忘れていましたが、祝祭日に内科の先生方にもお願いするとなると、現時点で祝祭日に自院で診療なさっている先生方も居られますので、その点はサイクルを調整させていただきたいと思ひます。

黒羽根議長:それぞれ科の特殊性があるとは思ひますが、その点については融通を利かせて欲しいという答弁であります。

その他ありますでしょうか。

犬塚博先生:議案とは違ひなのですが、看護師の配備などは今までどおりなのではないでしょうか。

中目会長:ベッド数の増加などにもよりますが、

臨床経験の豊富な看護師の配備を要求したいと思ひますし、運営協議会でも検討されると思ひます。

黒羽根議長:このシフトに関しては平成19年から、新施設については平成22年からとなりますので、機能の充実に関してはこれから討論されると思ひますので、議案第2号ではシフトに関して採決をいただきたいと思ひます。賛成の方は挙手をお願い致します。

- 挙手多数 -

黒羽根議長:賛成多数ということで可決されました。

続きまして、議案第3号 専決処分(本医師会顧問の委嘱)の承認について、中目会長お願い致します。

中目会長:これは手続き上の問題ですが、齋藤前会長に顧問をお願いしたわけですが、総会決定ではなく会長専決ということで委嘱しておりました。定款によると、その後の総会にて了承を得るようという項目がありますので、ご了承の程お願い致します。

黒羽根議長:ご質問ありますでしょうか。宜しいでしょうか。

- 賛成多数 -

黒羽根議長:本日の議題は全て終了致しましたが、他にご意見などありますでしょうか。

丸谷紘一先生:緊急時の対応からは、会長を外した方がよいのではないかと思ひますが、いかがでしょうか。

中目会長:両副会長も居りますので大丈夫です。

黒羽根議長:その他ありますでしょうか。

それでは、本日の総会は以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

(午後7時5分閉会)

私のお勧めの店

その15

横山 靖

寒い季節になってきた。そんな日にはサッポロラーメンを食べたくなる。

中華そばしか知らなかった私が、初めてサッポロラーメンを食べたのは小学校の頃だったろうか？おいしさにびっくりした、そのお店の名は『ソーラン軒』さん。その頃は、内川の橋をはさんで消防署の斜め前にお店があった。外は冷たい雪でも、お店の中はいつも湯気がもうもうと立ち上り、そのためお店の窓はいつもその湯気で曇っていた。そしてその曇った窓を見ると、『ああ、お店の中は暖かいんだな。早く、お店に入って熱々のサッポロラーメンを食べよう！』と思うのだった。

以前、『やぶ』さんのサッポロラーメンを書いたが、あれはやはり味噌ラーメンなのであって、先代のおやじさんにまた怒られそうだが、やはりサッポロラーメンではないように思う。時代の流れからすると、たとえサッポロラーメンが味噌ラーメンの始まりであったとしても、今やいろんなタイプの味噌味のラーメンが存在し、さらに広い意味での味噌ラーメンという大きなカテゴリーを形成している。そういう意味でサッポロラーメンは、単に味噌ラーメンの一つのタイプとなってしまった。

それでは、サッポロラーメンとはどういうものだろうか？その答えは、やはり元祖のお店にある。サッポロラーメンの元祖、あるいは味噌ラーメンの元祖といえば、札幌にある『味の三平』さんである。今は文具などを売っているビルの4階にある。私は札幌に行けばかならず立ち寄る。

コクのある味噌スープは、ラードを溶かし込んだと思われ、それがスープにまろやかさもたらし、ほどよい甘味の余韻を残す。本当に体の芯まで暖まる感じである。そして麺は何といても西山製麺の黄金色とも云えるような、中太で、縮れの黄色みがかかった、ツヤのある、コシのしっかりした、

独特の味と香りのある麺。目をつむって食べても西山製麺製の麺とわかる。さらに具はモヤシにタマネギであるが、ここにも工夫がある。モヤシにタマネギはただ炒めただけではなく、ちょっとしたスープと合わせて炒めてあるように思う。そうでありながら野菜はシャキっとし、スープには野菜の旨みが滲み出ている。肉は定番の豚の挽肉。これも何かでつないでいる。何かをおろしたような、でんぷん質のものとラードを合わせたような、そんなものでつないでいる。この味噌スープ、ラード、西山製麺、モヤシとタマネギ、豚の挽肉の組み合わせが正統的サッポロラーメンの姿といえる。

そして、まぎれもなくこれらすべてを踏襲しているのが『ソーラン軒』さんのサッポロラーメンである。ラーメンに血統というものがあれば、間違いなくこの元祖三平が作り出したサッポロラーメンの味を受け継いでいる。ただ気になるのは2～3年前に味噌が変わったように思えて、少しあっさりめで、甘みの少ないものになったような気がするの私だけだろうか？ところで、ここはギョウザもおいしい。ギョウザのあんの下味をしっかりとつけていることが、おいしさの秘訣だと思う。昔話を書いたがお店自体ははるか前に移転し、現在は旧国道7号線の沿いの西新斎町にある。

ソーラン軒

住所 鶴岡市西新斎町7-59

TEL 0235-24-8756

マイペット&マイホビー

- 第41回 -

松原要一（鶴岡市立荘内病院）

マイホビーと言うより好きな事を挙げれば、ゴルフ、散歩、麻雀、温泉など。以前はテニス、水泳、パチンコ、釣り。時間があれば読書、美術館・博物館、囲碁・将棋、旅行、夏の海・山。いつの日か、時間が有り余ったら絵・書を。つまりヒトに紹介できるようなマイホビーは今のところ無い。

マイではないが我が家のペットは経験したので、この機会にその記憶を辿ってみた。

ネコ

子供のころ姉と二人で橋の下から拾ってきた真っ黒な子猫。戦後満州から奇跡的に家族4人無事に引き上げてきたものの、日本中で住宅・食糧事情が極めて悪く生活自体が厳しい時代。しかし、どういふわけか母が飼うことを許した。おそらく死にそうなほど弱っていたせいだろう。いつももひもじかったが、子猫は良く食べ元気になり、太って、結構長生きした。ネズミも良く捕ってきた。このネコが死んだ時家族全員泣きに泣いた。父がお経をあげ（曾祖父は坊さん）、家族で見送った。それがトラウマとなり、その後ペットは飼わなかった。その父も姉も既に亡くなった。

金魚

外科医となって結婚、娘二人と息子の5人家族となり家を新築した。その頃次女が金魚を2匹貰ってきた。直ぐに死ぬのではと思い、父親としてかなり頑張ってフォロー・ケアした。子供たちが大きくなって関心をなくした後も長生きした。次々と水槽を大きくしたせいも2匹とも実に巨大になった。そのため日常の管理が容易でなくなり、

大学の研究室に運んで仕事しながら飼っていた。その後、飼ってもよいと言う同室の同級生（胸部外科医）に引き取ってもらい、やっと解放された。

スズメと文鳥

ある時、次女が巣から落ちていた瀕死の小さなスズメを拾ってきた。職業柄その命を守らなければと努力したが、餌付けが出来ず直ぐに死んだ。その後、悲しそうな次女のために文鳥のつがいを購入した。卵6個が孵化したので、親鳥は店に引き取ってもらい、雛を家族全員で育てた。次女を筆頭に我が家の人間は全て親だと思って（摺り込み現象）、よくなつた。餌を食べ・寝る時意外は家の中に放し飼いで、あちらこちらが糞だらけとなり、女房は掃除が大変だった。結構長生きした。それぞれ死んだ時は解剖し、卵詰まりなど死因を検証し、その後子供たちが庭に小さなお墓を作って埋めた。残った2羽には皮膚腫瘍（文鳥に多い疾患）ができて愛鳥病院に連れて行った。先生曰く「切除すると出血多量で助からないのでこのままに」とのことであった。その後腫瘍は増大し、そのため目も見えなくなり、鳥かごの中で餌を食べる以外動かなくなった。最後の1羽になった時、パパもお医者さんでしようかと訴える次女の目を見て、未体験の分野ではあるが治療に挑戦することにした。当時本職はヒト専門の外科医であったが切除は諦め、大学で治験をしていたOK432（ピシバニール）の残液を集め、腫瘍に局注した。小さい鳥には量が多すぎたのか痛かったのか、直後に失神した（医療事故）。運良く数時間で蘇生し一晩看病して事無きを得た。驚くべきことに数日で腫瘍が萎縮・乾燥し、2週間ほどで殆どが

ロリと脱落した。見えなかった目も見えるようになり元気になった。ブレオマイシンを使わなかったのは正解だった。このエビデンスはこれまで公表していない（症例が少ない）。「普段家に居ないたまに帰ってくる変なオジサン」から「頼りになるパパ」に昇格した。その後も皮膚腫瘍が2回できたが治療し、結局老衰で死んだ。

イヌ

これも小学生になった次女がイヌに興味を持ち、飼いたいと。娘、特に次女に弱いパパは、つてを探し子犬を貰って欲しい外科の後輩を見つけた。生後1ヶ月の子犬を次女と引き取りに。子犬は2匹残っていて、次女がメス一匹を選び「モモ」と名付けた。連れてきたのが1月で寒く、まだ小さかったため、部屋の中で飼うことになった。柴とスピッツの雑種で高価ではなかったが、その日から家族の一員となり、わが夫婦には子供が、子供たちには妹が一人増え。家族全員で可愛がり、

大事に育てた。私の重要な役割分担は入浴と散髪であった。美人で、やさしく、おとなしかった。行動を見ると、どうも本人はイヌでなくヒトだと思っていたようである。私たちが時々モモが言葉をしゃべらないのが不思議に思ったものである。従って生涯独身であった。もちろん遺伝子はイヌなので、モモにとって我が家の序列は次女・女房・モモ・パパ・息子・長女と意識していたようである。しかし、ヒト?となると時々混乱していたのではないかと思われる。モモも長生きして、昨年平成17年5月11日老衰で亡くなった。生後17年5ヶ月であった。殆ど苦しまず、天寿を全うし、尊厳死であった。不思議と悲しいと言う気持ちは湧いてこなかった。今も新潟の家にはモモの骨壺が居間にあり、帰るたびにモモの骨壺を持ち上げて再会している。

モモの思い出はとても書き切れるものでないので、写真を掲載して終わりにする。



新年明けましておめでとうございます。

昨年に比べると夢のようなお正月で、鶴岡に住んでいるとは思えない、それこそ関西にでもいるような感じでした。

しかし雪だけでなく、気温も高めであることを考えると、やはり地球温暖化がすぐそばまで来ているのではないかと、一抹の不安を感じさせるお正月ではありました。

当院では、大晦日と元旦には分娩がなく、何年かぶりにゆっくりしたお正月ではありました。しかし、少子化もすぐそばまできているのかとこれまた不安を感じましたが、2日には3人が相次いで生まれ、やれやれというところです。

昨年は出産が多く（但し実感はありません）、これも景気回復が相当影響しているとのことでした。

2050年には日本の人口は9000万人を割り込むという推計がでており、戦時中ではないのですが、これからは「産めよ増やせよ」を真剣に考えなければ日本の国自体が「美しい云々」などと悠長な事をいってられない状態になっていくように思われます。

政府もいろいろなプラン（仏）だけ作り、金銭的な手当（魂）をしない政策をやめて、しっかり仏を作って魂を入れて欲しい。分娩手当金を数万円上げたぐらいでは、分娩数は増えません。

景気回復で分娩数が増えるならば、経済的な手当をしっかりとやれば（不妊治療を保険適応にする。妊娠から分娩、小学校ぐらいまで医療費を無料にするなど）、必ず人口の減少を食い止められるのではないかと思います。

外国人労働者が増えれば、その賃金はそれぞれの国に送金され、国内で消費されないわけですから決して日本のためになるとは思われません（三川のショッピングセンターと同じ？）。

ただ、分娩できる施設の減少が急速に進んでいる現実を考えると、分娩数が増えてもお産難民が増えるだけとなる可能性もあります。産婦人科開業医の半数以上が「自分の子供に産婦人科をさせたくない」と考えているという統計もあり、そこら辺の対策も緊急に必要となるでしょう。但し、医師会レベルではできることは限られているようです。

一鷹二富士三なすびのめでたい初夢の話をしたかったのですが、新年早々チョットほろ苦い話になりました。申し訳ありませんでした。

本年が皆様にとって健康で良い年でありますようにお祈りいたします。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・齋藤憲康・五十嵐裕・福原晶子・岡田恒人

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)